移住の“リアル”をたっぷりお届け

移住定住ポータルサイト 長岡のはじめ方 NAGAOKA

移住者によるブログやインタビュー動画、「長岡あるある」の１コマ漫画などで、欲しい情報を丸ごと紹介するウェブサイトです。

サイトのデザイン・設計を担当

長岡を離れてからも、地元に貢献したいという強い想いがありました。自身の仕事の経験と、移住者としての目線を組み合わせて制作しています。インパクトのあるイラストやアニメーションで、より若い世代の興味を引くサイトを目指しました。

長岡暮らしをイメージできる
「こんな暮らしを実現したい」と思える、移住者のリアルな声をお届け

６つのエリア
市外の人にも伝わるシティ、タウン、中山間、田園、シーサイド、産業のエリア分けで魅力を紹介

㈱ゼノメディアブレンド
ウェブプロジェクトマネージャー　近藤 純代（すみよ）さん（長岡出身）

千葉県在住。ウェブ・映像の会社を夫と起業。車中泊での日本一周達成や、冬季のみ湯沢町で暮らす二拠点居住などを実践する

ちょっと紹介 市民なら共感すること間違いなし!?

まちを知るブログ

先輩移住者など９人が、長岡暮らしのリアルを執筆しています

ウイルス禍で感じた
長岡での子育ての「ちょうど良さ」

令和２年に出産した新稲さん。東京への里帰りを自粛し、代わりに母に手伝いに来てもらったエピソードや「子育ての駅」を紹介しています。

わかる人にはわかる 長岡あるある

新稲さんによる１コマ漫画で紹介しています

花火が終わると夏も終わる

書いたのはこの人！

Ⅰ 平成27年ターン

ペンネーム
新稲（にいな） ずな さん
（東京都出身）

長岡は夫の出身地。都会とのカルチャーギャップを４コマ漫画にまとめた同人誌「ちほうとしぐらし！2021」や、市内の名物看板「松田ペット」の写真集（下画像）を出版

長岡での出来事を漫画にしたきっかけは、“９月頭に会社から上司が一斉に消えた”こと。東京で生まれ育った私にとって、みんなが稲刈りに行ってしまったのは衝撃的でした。誰かに伝えたいと思い、SNSに投稿したのが始まりです。

松田ペットの看板は、地元だけでなく県内外からも大きな反響がありました。今まで誰も注目していなかったのが不思議なくらい。“気づいていないところに地元の魅力がある”という一例です。これからも、長岡の面白さを発信していきます。

U 令和元年ターン

オンヨネ㈱　営業統括部　係長
志賀 雅仁（まさと） さん

長岡で生まれ育ち、高校卒業後は東京で17年間暮らす。同じく長岡出身の妻・彩（あやか）さんの第二子出産を機にUターン

安心感のある子育て環境 帰ってきて本当によかった

子育てのしやすさを求めて帰ってきた志賀さん。現在、３人のお子さんを育てています。

―東京の生活で感じた不安は。

保育の一時預かりが必要なときに予約できなかったり、災害が起きたときに避難できないんじゃないかという心配があったり。暮らしは便利で楽しかったけれど、子育てをするには大変な環境でした。

―地元・長岡の子育て環境は。

車を利用するから、出掛けるときのフットワークが軽くなりました。公園は多いし、子育ての駅や子育て支援センターなどの施設も充実していると思います。何よりも、両親や友達がたくさんいる環境は安心感が強いです。

―これからUターンを検討する人にメッセージを。

通勤に時間をとられていた東京時代と比べて、家族と過ごす時間が増え、みんなの笑顔も増えました。長岡はとても子育てがしやすいまち。帰ってきて本当に良かったです！

こんな支援も

妊婦にお祝い５万円 マタニティライフ応援金

支給額＝妊娠１回につき５万円
（多胎児の場合は５万円加算）
問子ども・子育て課☎39・2300
★子育てに関する情報は、ながおか子育てアプリ「母子モ」で 31ページへ

長岡だから味わえる、日本の魅力

Ⅰ 平成27年ターン

吉乃川㈱　経営戦略部　次長
横本 昌之（まさゆき） さん（京都府出身）

大学卒業後は約20年間東京で暮らし、広告制作会社で相撲の宣伝事業などに携わる。現在は吉乃川㈱で広報、宣伝、商品開発などを担当

河井継之助をテーマに講演を行うなど、大の日本史好きの横本さん。長岡暮らしも、日本文化がキーワードです。

―長岡に移住した経緯は。

妻が長岡出身だったのがご縁の始まりです。子育てするなら自然豊かな場所でと思っていましたが、やはり仕事も大切。新潟でやりたいことを考え、地場産業の酒蔵、そして最も歴史ある吉乃川で働きたいと思いました。お酒の持つ文化的価値に魅力を感じたからこそ長岡に来たんです。

―地域では中之島凧組合・五郎組に所属しています。

地元のつながりが一気に広がりました。準備からみんなで集まり、凧揚げの難しさや熟練者の迫力も体感すると凧合戦の面白さは格別です。限られた人だけの文化になるのはもったいないと思い、仕事の経験も活かして動画を制作するようになりました。

―長岡市民に伝えたいことは。

地元の人は「何もない」と言うけれど、毎日の通勤風景でさえきれいで、語りがいのある偉人や出来事もたくさん。長岡には日本の魅力がぎゅっと詰まっている気がします。それをうんちくを交えてプレゼンして、みなさんに知ってもらうことが私のライフワークです（笑）。

360年以上続く中之島地域の大凧。制作した動画はこちら

横本さんの通勤路の風景

撮影：横本さん